

令和7年度外郭団体活動状況評価シート No.1

【令和7年3月31日時点】

団体名		公益財団法人吹田市国際交流協会				所管部室（課）名		都市魅力部文化スポーツ推進室			
所在地		〒565-0862		吹田市津雲台1丁目2番1号							
設立年月日		平成3年3月12日			代表者職・氏名		理事長 近藤 佐知彦				
基本財産		200,000,000円			①本市出資金（本市の出資割合）		円（ %）				
					②本市出捐金（本市の出捐割合）		200,000,000円（ 100 %）				
設立目的	吹田市と連携をはかりながら市民主体の国際交流活動を進めるとともに、地域に根ざした国際相互理解や国際化に資する事業を推進することにより、異なる文化や価値観を有する人が安心して暮らせる人権尊重を基調とした地域社会づくりに寄与することを目的とする。										
事業内容	1 市民主体の国際交流・国際協力に係る事業 2 国際化推進の人づくり支援に係る事業 3 在住外国人の支援に係る事業				（具体的な事業内容） (1) 国際交流情報の収集及び発信 (2) 市内大学との連携による留学生等と市民の交流 (3) 国際交流ボランティアの養成 (4) ボランティアによる日本語交流活動 (5) 国際理解、啓発、国際交流団体等支援・連携 (6) 日本語教室の開催 (7) コミュニティ通訳ボランティア同行コーディネート (8) 外国にルーツを持つ子どもの支援 (9) 防災減災 (10) 吹田市多文化共生ワンストップ相談センター						
		合計（市職員及び元市職員以外も含む。）						合計（元市職員以外も含む。）			
				うち市職員	うち元市職員					うち元市職員	
役員数 （人）	理事 （取締役）	常勤	0	0	0	職員数 （人）	常勤	6	0		
		非常勤	8	1	0		再任用※1 常時勤務	0	0		
	監事 （監査役）	常勤	0	0	0		再任用※1 短時間勤務	0	0		
		非常勤	2	0	0		非常勤	4	0		
65歳以上の役員数※2 （人）		3		0		臨時 雇用員	0	0			
評議員 （人）		10		0		65歳以上の職員数 ※2	1	0			
元市職員に対する報酬や給与水準が、市再任用職員の水準を上回る。（いずれかに○）						該当 ・ <input checked="" type="radio"/> 非該当					
【該当する場合のみ記載】内容											
元市職員に対して退職金を支給している。（いずれかに○）						該当 ・ <input checked="" type="radio"/> 非該当					
【該当する場合のみ記載】内容											

※1 再任用職員とは、団体の定年年齢以降における最初の3月31日を超えて雇用されている職員をいう。

※2 65歳に達した日以降における最初の3月31日を超えて雇用されている役員数又は職員数。

令和7年度外郭団体活動状況評価シート No.2

【令和6年度決算】

団体名		公益財団法人吹田市国際交流協会			所管部室(課)名	
					都市魅力部文化スポーツ推進室	
財務状況(円)	損益計算書	総収入	63,305,149	貸借対照表	資産の部合計	215,297,986
		(うち市受入金)	40,799,000		負債の部合計	13,709,977
		(その他)	22,506,149		(うち有利子負債)	0
		総費用	67,324,025		正味財産合計	201,588,009
		経常損益	△ 4,018,876		(うち一般正味財産)	1,588,009
		当期損益	△ 4,018,876			
市から団体への支出(円)	フロー	主要内容、算出根拠等				
		補助金	1,300,000	吹田市国際交流協会事業補助金		
		委託料	30,438,000	外国人等支援及び国際交流促進業務		
			7,799,000	日本語教室及び日本語学習支援業務		
			1,262,000	行政通訳同行業務		
		指定管理料				
		その他				
	計	40,799,000				
	ストック	貸付金残高				
		債務保証残高				
		損失補償残高				
		出資金(出損金)	200,000,000	吹田市出捐金		
その他						
計		200,000,000				

令和7年度外郭団体活動状況評価シート No.3

【評価対象期間: 令和6年4月1日から令和7年3月31日まで】

団体名	公益財団法人吹田市国際交流協会	所管部室(課)名
		都市魅力部文化スポーツ推進室

1 団体による評価

(1) 運営に関する評価

◎→できている ○→概ねできている
 △→一部できている ×→できていない

指針の項目	評価項目	評価	評価の理由
組織及び人事管理	組織や、事務処理に関する規程等を適切に整備している。	○	・規程やハラスメントを防止するための措置等は、社労士と適宜相談のうえ整備した。
	団体の事業規模に応じた簡素で効率的な執行体制としている。	○	・事務局執行体制についても中小企業診断士のアドバイスを参考に簡素で効率的なものとしているが、職員体制が規則と乖離していたため、令和7年1月に新たに事務局次長を配置し代決者とした。
	コンプライアンス関係規程・必要な体制の整備、ハラスメントを防止するための措置を講じるなど、組織の体制強化に取り組んでいる。	◎	・職員の採用は、原則公募とし、複数の職員による面接によって決定し、公正性と透明性を確保している。
	団体の事業規模や経営状況に応じた役員数及び職員数としている。	◎	・理事、評議員、監事には、報酬及び退職金を支給していない。職員給与については、経営状況に応じた水準としている。
	採用における公正性・透明性を確保している。	◎	・他機関の関連事業や研修への参加を促し、組織内の職員研修も実施している。
	団体の経営状況に応じた役員報酬や職員給与としている。	◎	
	職員研修の充実に努めている。	◎	
事業運営	事業の必要性や意義を見直しつつ、効果的、効率的な事業運営を行っている。	◎	・事業の振り返りを着実にを行い、効果的・効率的な運営に努めている。
	事業を継続的に点検し、市民ニーズに沿ったものとしている。	◎	・事業参加者にアンケートを実施し、内容や方向性について客観的な検証をすることで、ニーズに沿った事業となるよう努めている。
財務管理	中・長期的な経営計画を策定している。	○	・中期アクションプランを策定している。社会情勢、経営状況等を勘案し、見直しの要否を検討する。
	自主財源の確保に努めている。	◎	・自主事業である語学教室のコンテンツ充実を図り、更なる自主財源の確保に努めている。
	各種経費を可能な限り抑制している。	◎	・大型ディスプレイ活用推進、SNS発信頻度向上によるペーパーレス取り組みを契機に経費削減意識を徹底している。
	最も確実かつ有利な方法で財産の管理運用を行っている。	○	・公認会計士、税理士の活用により監査体制を強化している。財産運用については更に有利な運用を検討する。
	外部の専門家による監査を活用するなど監査体制の強化に努めている。	◎	
情報公開	団体の経営状況、事業計画を公開している。	○	・経営状況、事業計画、役員名簿、議案概要は、ホームページで公開しているが、令和6年度は公開時期が9月となったものがあつたため、次年度以降は6月中旬に公開する。
	団体の役員名簿、会議録等を公開している。	◎	
	ホームページをはじめとする多様な手段で情報提供を行っている。	◎	・ホームページに加えSNSを利用して情報発信を行っている。
	個人情報保護に関する措置を適正に講じている。	◎	・弁護士の助言に従い、個人情報保護に関して、適正に対応している。

令和7年度外郭団体活動状況評価シート No.4

【評価対象期間: 令和6年4月1日から令和7年3月31日まで】

団体名	公益財団法人吹田市国際交流協会	所管部室(課)名
		都市魅力部文化スポーツ推進室

(2) 事業に関する評価

ア 指標による評価

事業名	活動指標	令和6年度目標	令和6年度実績	(参考) 令和5年度実績
	成果指標			
市民主体の国際交流・国際協力	ホームページへの多言語情報掲載件数	85回 (昨年度並み)	87回	85回
	ボランティアによる日本語学習支援参加者数	4,200人 (昨年度並み)	5,136人	4,195人
国際化推進の人づくり事業	異文化理解・啓発事業数(多文化まつり、多文化共生講座、国際理解事業)	12回 (毎月1回程度)	13回	42回
	日本語教室受講者数	2,150人 (昨年度並み)	2,173人	2,160人
在住外国人の支援	吹田市多文化共生ワンストップ相談センター相談件数	700件 (昨年度比125%程度)	849件	553件
	コミュニティ通訳ボランティア同行事業同行件数	160件 (昨年度並み)	157件	154件

イ 指標で示すのが困難な場合

事業名	活動内容	成果内容
①語学教室 ②多文化まつり ③防災減災事業	①多様な言語・文化を受講する場を地域住民に提供している。 ②様々な展示やワークショップ、イベント、見学を通して、地域住民間の交流を促し、相互理解につなげている。 ③災害発生時の多言語情報発信態勢の構築に加え、FM千里に出演し在住外国人向け防災減災事業を紹介する等、市と密接に連携し事業を展開している。	①学習者の家族や友人知人が新たに受講者となる等、満足度が高いことが想定できる。 ②従来型の催しに加え、2024年4月に稼働した吹田市総合防災センター内北消防署の消防車、救急車見学イベントを防災減災事業展開の端緒とする新たな試みも好評であった。 ③行政や関連機関等が発信する防災に関する情報をオフィシャルホームページに加えSNSで多言語発信し露出度を高めた。

(3) 今後の取組方針 ※(1)において◎以外とした事項、課題となっている事項について重点的に記載

<p>・令和7年1月に「事務局組織規則」「事務処理規則」に則り、事務局長の代決者として事務局次長を配置し、簡素かつ効率的な事務執行体制を強化した。今後は、更なる事務効率化ならびに業務品質向上を目指し、両規則の改定を検討していく。</p> <p>・事業規模および事業環境の変化を踏まえ、中期計画の見直し、若しくは新たな中期計画の策定を検討していく。</p> <p>・経済状況や賃上げ同行を見極め、職員の就業意欲と定着率向上の為に必要な給与水準、福利厚生規程の整備を検討していく。</p> <p>・協会財産の運用については、市場金利の動向を見据え、証券会社等から適時に情報を積極的に入手し、より有利な運用となるよう検討を進める。</p> <p>・適時、適切な情報公開、情報発信を企図し、オフィシャルホームページの運用体制を見直すとともに、SNS等発信体制の強化を検討していく。</p>

令和7年度外郭団体活動状況評価シート No.5

【評価対象期間：令和6年4月1日から令和7年3月31日まで】

団体名	公益財団法人吹田市国際交流協会	所管部室(課)名
		都市魅力部文化スポーツ推進室

◎→できている ○→概ねできている
 △→一部できている ×→できていない

2 市による評価

(1) 団体の運営に関する評価

事項	評価項目	評価	評価の理由
団体の存在意義	市民福祉の向上に資する事業を行っている。	◎	協会の広い人脈や豊富な情報を活用しながら、市の委託事業や補助事業、自主事業を展開しており、吹田市多文化共生推進指針に基づく施策の推進に寄与しているため。
	事業の成果が市の施策の推進に貢献している。	◎	
事業実施主体としての妥当性	市が直営で行うよりも効果的かつ効率的にサービスを提供している。	◎	吹田市多文化共生ワンストップ相談センターの運営、日本語教室の実施など、効果的かつ効率的に、外国人等への支援に寄与するサービスを提供しているため。
	多くの市民の理解が得られる活動を行っている。	◎	

(2) 団体の自己評価に対する市の見解

各種規程やハラスメント防止措置等を社会保険労務士に相談のうえ整備しており、組織の体制強化に取り組むことができている。また、令和7年1月に新たに事務局次長を配置するなど、事業規模や経営状況に応じた人員体制の構築に取り組むことができている。引き続き、将来にわたって安定的に事業運営を行うことができる人員体制の確保に努めていただきたい。

財務管理について、令和2年度に中期アクションプランを策定しているが、事業規模及び社会情勢の変化を踏まえ、中期計画の見直し等について検討を進める中で、更なる経費抑制や財源確保の方策について検討されたい。

ホームページでの経営状況・事業計画・役員名簿・議案概要等の公開など、情報公開や個人情報の保護については、適正な措置が講じられている。在住外国人等の増加に伴い、貴団体の知名度向上や事業周知を強化する必要があるため、今後、情報を受け取る側のニーズに合わせて、SNS等を用いた発信体制の強化を検討されたい。

事業について、吹田市多文化共生ワンストップ相談センターや行政通訳同行の件数が大幅に増加しているものの、適切かつ効率的に対応することができていることから高く評価している。

(3) 市の関与に関する今後の方向性

外国人等の増加や多国籍化等による支援ニーズの多様化に対応するため、令和5年度に策定した「吹田市多文化共生推進アクションプラン」に基づき、これまで協会が蓄積させたノウハウを活用し、市と協会連携のうえ事業を実施していく必要がある。

また、外国人等を取り巻く情勢やニーズ等の変化を踏まえた事業内容を検討するなど、柔軟に対応していく必要がある。

今後も、市内在住外国人等の全ての人が安心して住むことができるまちづくり、多文化共生社会を推進する。